

在宅強化型老健の維持と稼働率向上をめざして

介護老人保健施設 セージュ新ことに

○木村 洋美 清水 満 玉置 菜津美 瀧澤 祐希

平戸 貴弘 安東 圭子 根本 忠典 加納 英雄

「はじめに」

地域連携相談課の平成 27 年度の目標は「在宅強化型老健の維持」と「入所ベッド稼働率 99%」である。しかし、平成 26 年 4 月～10 月と平成 27 年 4 月～10 月を比較し入所相談数が 10 件減少。加えて退所者数に入所者数が追いつかず、空床が数日続く時期があった。以上の状況を踏まえ、目標達成のための工夫を報告する。

「方法」

札幌・石狩市内の現状を把握するため、平成 27 年 11 月に市内全介護老人保健施設（以下老健）47 施設を訪問し、支援相談員に対して記入式のアンケート調査を実施、39 老健より回答を得る。アンケート結果より、在宅強化型老健 9 施設の平均稼働率は 96.1%、その他老健は 94.8%であった。稼働率が上がらない要因として、『入所相談がない』『薬価が高い』『退所後の方向性が定まってない』という入所相談の課題と『介助量が多くて大変』『転倒する可能性があるから』『医療ニーズが高い』と現場が受け入れを拒否する理由が判明する。当施設でも同様の理由で空床ができるため、これらの要因を解決するための方法を実施する。

「結果」

入所相談の課題には、近隣老健 3 施設との共同にて実施。事前に各老健の特徴を把握し、平成 27 年 12 月より毎週月曜日時点の空床情報を共有する。満床や待機者数の理由で受け入れ困難な方を他老健に紹介したり、回転率を上げるために、空床のある老健へ入所相談を実施。平成 28 年 3 月時点で受け入れ困難なケース 27 件を各老健に相談し、合計 3 件が入所に繋がっている。具体的に稼働率が上がる変化はなかったが、横の繋がりが強くなったことで、各老健間の入所相談や加算内容などの情報交換も可能となる。

現場との調整は、今回のアンケート結果を各部署長に報告し理解を求め、全職員に対しても「在宅強化型老健について」「稼働率」についての勉強会を実施する。経営について現場職員にも周知し、空床に対する意識付けを行う。他老健で入所を断る要因として、転倒リスクが高い・食事介助が必要なことがあるため、当施設では入所中の方に対して、多職種共同でアセスメントを実施し、なぜ転ぶのか、本当に食事介助が必要なのか評価した結果をご家族に報告する。その結果、付き添いが必要な方を見守りに変更したり、三食定時に提供するのではなく覚醒状態や体調が良い時に食事を提供する方法へ変更し、新規の方を積極的に受け入れている。

「結論」

以上を通し、当施設は平成 26 年 10 月～平成 28 年 6 月まで在宅強化型老健を維持し、平成 27 年度入所稼働率 99%の目標を達成できた。

アンケート結果から入所相談の減少だけが空床理由ではなく、受け入れ拒否も空床の要因になっていると考える。今回の各老健との取り組みを通し、同じ視点で行ったことで改めて横の繋がりの大切さを実感することもできた。また、現場とも引き続き協力しながら、今年度も在宅強化型老健の維持と 99%以上の稼働率を目指していく。